

行橋市立延永小学校学校通信  
(2018年・平成30年度)

延小だより No.16

November 11月20日 発行

【学校目標】  
豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成

《校訓》 勤 勉

◇ めざす子ども ◇

- ☆ 思いやりの心もち、素直で明るい子ども
- ☆ 自ら意欲的に学び、すすんで汗をかく子ども
- ☆ 地域に愛される元気な子ども

## 「ありがとう」といことば

毎日の生活の中で、私たちはたくさんの言葉を交わします。その中でも、特に耳にさわやかな気持ちのよい言葉はどんな言葉でしょう。NHKの調査では、日本人が好きな言葉のなかで、いちばん好きなものは「ありがとう」という言葉だそうです。「ありがとう」と人から言われると、とてもうれしい気持ちになります。みなさんも学校や家で「ありがとう」と言ったり、言われたりすると気持ちがいいでしょう。これからも大切にしたい言葉ですね。ちなみに校長先生から、延永小学校児童のみなさんへ

「毎日元気に登校してくれて、ありがとう！」感謝。感謝。

## なかよし祭りについて テーマ「感動をみんなで！」(PTA)

11月11日(日)に、PTA恒例行事の「延小なかよし祭り」が開かれました。バザー、模擬店、ラッキー抽選会、各種イベント(ビーチサッカー、ビンゴ)がありました。当日は、ビーチサッカー日本一に輝いた「ドルソーレ北九州」より男子部・女子部あわせて12名の方々が来校され、会を盛り上げていただきました。また、多くの子どもたちや保護者・地域の皆様の参加があり、盛会のうちに終了できました。企画運営のPTA実行委員会の皆様、バザー用品の出品などご協力いただいた多くの皆様、心より感謝申し上げます。



# 研究授業での子どもたちのがんばり

本校では、わかる授業・楽しい授業を目指して、定期的に研究授業を行っています。簡単に流れを説明すると、授業をする先生が中心となって大まかな授業の流れを作ります。次に、先生たちが児童になったつもりで授業を受ける模擬授業を行い、最後に、もう一度授業の流れを見直し、（これらの準備を経て、）実際の研究授業、授業後の協議会（反省会）を行っています。これらはすべて、児童の学力向上を目指したものです。同時に、教師の指導力（授業力）アップを兼ねています。子どもたちも、先生方の努力に<sup>して</sup>応えようと、いつも全力で授業に参加してくれます。まさに師弟同行です。



**【3年生授業風景】**



**【4年生授業風景】**



**【5年生授業風景】**

# としょママさんいつもありがとう（1、2、3年）



【1年生 としょママ】



【2年生 としょママ】



【3年生 としょママ】

## 絵本の読み聞かせ（効果が子供にもたらすものとは？）

### 【理解力・想像力がつく】

子供は絵本の絵を見ながらお話を聞くことで、実際にお話に出てくる人物や動物が動いているところを想像したり、どうしてお話のような結末になったのかを理解したりするようになります。つまり、読み聞かせることで、絵本のストーリーを理解する以上のことを理解することになるのです。自分で本

を読んでもストーリー以上のことを理解することができますが、文字と絵が両方視覚から入って来ますので、視覚と聴覚をどちらも用いる読み聞かせほどのインパクトを期待することができません。読み聞かせには、子供の理解力と想像力を視覚・聴覚の両方で刺激をするという効果も期待できるのです。

## 【集中力】

短い絵本であっても5分から10分は読み終わるのに時間がかかります。親が読み聞かせを実施している間、子供はお話に集中しているわけですから、少なくとも5分から10分の集中力を育てていることにもなるのです。徐々に集中する時間が長くなると、もっと長い本にチャレンジすることも可能です。普段、集中力があまりないと思われる子供も、読み聞かせによって集中力が高まります。初めは子供の好きなテーマや絵が多い絵本を題材に選び、集中力が付いてきたと思われたら、徐々に長編や普段関心を持たない絵本などに触れさせていきます。このように丁寧な段階を経ることで、絵本以外にも集中力を発揮できるように育てていくことができるのです。

## 【言語能力】

絵本を読むと、その作者や訳者の言葉遣いを知ることができます。普段使わないような言葉に触れ、その意味を知ること、着実に言語能力を高めていくことができます。もちろん、言葉にはその言葉が指す「意味」があるだけではありません。関連する言葉やその言葉が発せられるシチュエーションなどもすべてひっくるめて1つの言葉を構成しています。絵本を繰り返し読むことで、この言葉はこのようなシチュエーションで使われるということを理解し、関連した言葉や反対の言葉、似ている言葉なども覚えていくことができるのです。

## コミュニケーション力・考え方の幅が広がる

絵本の中の人物や動物、ときには無生物の行動によって、「こんなときにはこういう風に行動すると嬉しいな」「こんな言葉を使うと、嬉しい気持ちになるなあ」ということを、子供は実際に経験しなくても知ることができるようになります。文中に出てくるやりとりから、コミュニケーションの能力も育てていくことができるのです。また、親に読み聞かせをしてもらうことで、子供は自分の考え方だけでなく親の考え方、絵本の中の登場人物の考え方にも触れることができます。考え方の幅を広げるためにも、絵本の読み聞かせは役に立っていると言えるのです。